所属　人間生活学部　保育学科		職名 教授	氏名　高　橋　真 由 美
学位 修士(教育学)(明星大学)	特記すべき資格		大学院における研究指導担当資格　無

I　教育活動

主な担当科目　〈学　部〉保育内容総論，保育内容(言葉・環境)，幼児理解と援助，保育・教職実践演習，幼稚園実習

教育実践上の主な業績	年月日	概　要
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
1) 食農教育プログラムの開発を通した保育者の資質向上のための試み	2014年8月～2019年8月	保育学研究演習で，ホクレンくるるの杜との協働による親子向けのプログラムの企画・実施を行った。プログラムは，ホクレンくるるの杜で行われている農作物収穫体験プログラム(いちご・ミニトマト)や野菜について学ぶプログラムにおいて幼児にもわかるようなものに作り変え，くるるの杜の職員さんとの協働で実施した。
2. 作成した教科書，教材		
1) 実習場面と添削例から学ぶ　保育・教育実習日誌の書き方	2016年9月	保育・教育場面のさまざまな場面に焦点をあて，その場面に求められる実習日誌の書き方を示した教科書である。執筆担当箇所の4歳児のクラス活動「言葉や音を使った表現遊び」では，4歳児の特徴をふまえ，表現することを楽しむための保育者の留意点を記述する日誌の記入例を示した。
3. 教育方法・教育実践に関する発表，講演等		
1) 自主シンポジウム「保育における感情労働と養成校の課題2－子どもの主体的遊びにかかわる力を育む保育者養成とはー」	2015年5月	日本保育学会の自主シンポジウムで子どもとの遊びにかかわる力をつける養成内容について議論するための話題提供を行った。学生は遊びを発展させることが保育者の役割であると思っているが，それ以前に子どもとの遊びを楽しむという経験も必要であること，そのために養成のあり方を今一度考える必要性を提案した。
2) 自主シンポジウム「保育における感情労働と保育者の養成－保育者に求められる資質を養うための養成内容の再検討ー」	2016年5月	学生の現状にあった保育者養成の議論をするために日本保育学会自主シンポジウムで話題提供を行った。実習場面において，見られることに異常に緊張をし，子どもの心も読み取ることが難しい様子の学生が見られる。そのような現状にあった養成方法として，タブー視されてきた「形」を授ける養成方法に着目することを提案した。
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II　研究活動

研究分野：社会科学分野(教育学)幼児教育・保育　　　研究キーワード：保育，保育者養成，感情労働

研究課題：①保育における感情労働　　　②保育者養成過程に潜む感情規則

研究内容：①Hochschildが提唱した感情労働という概念を保育の営みに当てはめることにより，保育者の専門性を探ることを試みる研究である。これまでには，「保育における感情労働－保育者の専門性を考える視点としてー」(共著)において，保育者がどのように感情をコントロールしながら保育にあたっているのかをまとめた。今後は，保育者養成過程に埋め込まれた感情規則の存在が学生の学びにどのような影響を与えるのかについて調査を行う予定である。
②本研究は，保育者の養成過程に潜む感情規則と学生の学びとの関連を明らかにするものである。保育者としての感情規則は，世の中における感情規則と同様に，存在するものである。存在自体が問題なのではなく，感情規則の存在が，学生の学び，特に子ども理解においてどのような影響を与えているのかについて，学生への聞き取り調査を中心に研究を進めている。

科学研究費及びその他外部資金の獲得状況：
1. こども未来財団児童関連サービス事業調査研究事業(平成23年度)
「保護者支援における保育者の感情労働ストラテジーの解明　若齢出産および高齢出産の子どもをもつ保護者に対する支援ストラテジーに関する質的研究」(研究代表者：神谷哲司(東北大学))
2. 科学研究費　挑戦的研究(萌芽)
「保育における「子ども理解」形成のローカル・ダイバーシティ」（研究分担者。研究代表者：川田学)2018年4月1日～2021年3月31日

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	担当頁及び編者・共著者名
(著　書)				
1. 実習場面と添削例から学ぶ　保育・教育実習日誌の書き方(再掲)	共	2016年9月	中央法規出版	58-63頁 小泉裕子編　市野繁子,遠藤純子,小川恭子,小川千晴,金子功一,上村麻郁,坂井真由子,相樂真樹子,関川満美,瀬戸朝子,高橋真由美,田中君枝,千葉弘明,土屋由,賓川雅子,真宮美奈子,持田京子,守巧

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	担当頁及び編者・共著者名
2. テーマでみる保育実践の中にある保育者の専門性へのアプローチ	共	2018年6月	ミネルヴァ書房	80-93頁 中坪史典,水野佳津子,妹尾正教,塩崎美穂,清永歌織,保木井啓史,妹尾有貴,淀川裕美,知念みね子,村上博文,福田泰雅,高橋真由美,中丸元良,箕輪潤子,松本信吾,吉田伊津美,山崎奈美,白石敏行,濱名浩,平野麻衣子,池田明子,市原悟子,横山真貴子,村崎千津子,香曽我部琢,出原大,二宮祐子,鈴木惠子,久保山茂樹,宮崎勝宣,小川晶,西垣真由美,吉田貴子,池ヶ谷恵美子,木戸彩恵,正岡里鶴子,堀越紀香,中山昌樹,上田敏丈,青山誠,西山修,宮武大和
（学術論文）				
1. 保育所における保護者支援研究の現代的課題	単	2015年3月	藤女子大学QOL研究所紀要　第10巻第1号	141-146頁
2. The relation between frequently exposed context in the early childhood settings' mathematical activities and arithmetic skills: A cross-cultural comparison of 6-year-old children in Singapore and Japan（査読付）	共	2016年5月	International Journal of Education and Research Vol. 4 No. 5	259-272頁 ◎Marcruz Yew Lee Ong ,Manabu Kawata, Mayumi Takahashi
3. 幼小連携の視点からみた教育に関する一考察―言語活動を通して「考える力」を育む―	共	2017年3月	藤女子大学QOL研究所紀要　第12巻　第1号	25-35頁 ◎高橋真由美，駒形武志，小川恭子
4. 環境とのかかわりと子どもの学び～砂場以外で展開される砂遊び場面に着目して～	共	2018年2月	保育学科研究紀要　第1号 藤女子大学保育学科	124-131頁 ◎高橋真由美，丸谷雄輔，平野麻実，竹内倫子
5. 学生が捉える自然とのかかわりと子どもの育ち～DVD教材「森のようちえん」の視聴から	単	2019年2月	保育学科研究紀要　第2号 藤女子大学保育学科	104-111頁
（その他）				
1. 幼児の加法計算における課題形式の効果―日本とシンガポールの6歳児の比較から―	共	2015年3月	日本発達心理学会第26回大会（東京大学）	マークルス・ユーリ・オン，川田学，高橋真由美
2. 保育所における保護者支援2―保育士の経験年数と支援の困難要因との関連―	共	2015年5月	日本保育学会第68回大会（椙山女学園大学）	高橋真由美，川田学
3. 自主シンポジウム「保育における感情労働と養成校の課題2―子どもの主体的遊びにかかわる力を育む保育者養成とは―」	共	2015年5月	日本保育学会第68回大会（椙山女学園大学）	高橋真由美，諏訪きぬ，小川房子，前田武司，砂上史子，戸田有一
4. 専門家との協働による幼児向けプログラム企画・実施の意義―農作物にふれる親子向け体験プログラムを通して―	単	2015年6月	日本食育学会第3回総会・学術大会（宮城大学）	
5. 感情労働の視点からみる 保育所実習における学生の感情と実習への影響	共	2015年9月	全国保育士養成協議会第54回研究大会（ロイトンホテル札幌）	傳馬淳一郎，高橋真由美
6. 自主シンポジウム「保育における感情労働と保育者の養成―保育者に求められる資質を養うための養成内容の再検討―」	共	2016年5月	日本保育学会第69回大会（東京学芸大学小金井キャンパス）	高橋真由美，諏訪きぬ，野田敦史，佐々木典彰，正岡里鶴子
7. 乳幼児を科学的に観る：発達保育実践政策学の展開 第2部　養育者のワーク・ライフ・バランス　話題提供「保育者の感情労働とワーク・ライフ・バランス-他者のワーク・ライフ・バランスを支える保育者たち」	共	2016年11月	日本学術会議主催学術フォーラム（日本学術会議講堂）	島津明人，高橋真由美，高橋翠
8. 遊びが展開される「場」の意味をとらえる保育実践－砂場以外の場所で展開される砂遊びに着目して	共	2017年8月	第8回幼児教育実践学会（札幌大谷大学）	丸谷雄輔，高橋真由美，平野麻実，竹内倫子

著書･論文等の名称	単著･共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	担当頁及び編者･共著者名
9. 自主シンポジウム　保育における感情労働と保育者養成3―養成過程に潜む感情規則に焦点をあてて―	共	2018年5月	日本保育学会第71回大会(宮城学院女子大学)	高橋真由美，諏訪きぬ，田窪玲子，久保田真規子，傳馬淳一郎
10. 発表会を通して子どもの育ちを考えるー観せる発表会から創る発表会へー	共	2019年8月	第10回幼児教育実践学会(常葉大学)	丸谷雄輔，高橋真由美，鹿谷梢
11. 保育学用語辞典	共	2019年12月	中央法規出版	185-187頁 秋田喜代美監修　東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター編著

Ⅲ　社会連携･社会貢献

所属学会　日本保育学会，乳幼児教育学会，日本保育園保健協議会，日本発達心理学会，こども環境学会

(社会的機関の役員委嘱等) ＜全国＞ ＜道内＞ 2017年4月～現在	 北海道幼稚園教諭養成校協議会実習委員会委員長
(地域的連携･貢献)	
(国際的連携･貢献)	

Ⅳ　学内運営活動

保育学科主任

Ⅴ　学生支援に関する自己研鑽